

- SCUを開設しました
- 病理部が「ISO15189」を取得
- 耳鼻咽喉科は「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」へ名称を変更しました
- 乳腺・一般外科は「乳腺・小児・一般外科」へ名称を変更しました
- スマートフォンによる患者案内サービスを開始しました
- 第15回「まごころ職員大賞」が決定

SCU(脳卒中集中治療室)を開設しました

脳神経外科・脳神経内科



脳卒中とは

脳卒中とは、脳梗塞及び脳出血、くも膜下出血のことを指します。脳卒中は、がん、心臓病、老衰に次いで日本における死因の第4位であり、年間約11万人の方が亡くなられています。また寝たきり等になる要介護原因としては、認知症に次いで第2位となっています。

脳卒中の予後改善には発症超急性期の治療や早期のリハビリテーションが重要で、特に脳卒中の7割を占める脳梗塞では血栓溶解療法(t-PA)や、血管内治療による再開通療法が有効とされています。

SCU (Stroke Care Unit: 脳卒中集中治療室) を開設

当院では、県内でも増加傾向にある脳卒中症例への診療体制をより強固かつ充実させるため、2021年5月からSCUを開設しました。

SCUとは、脳卒中を専門とする脳神経外科医や脳神経内科医、看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師など多職種からなる脳卒中専門のチームが常駐し、24時間体制で集中的に治療する病床です。



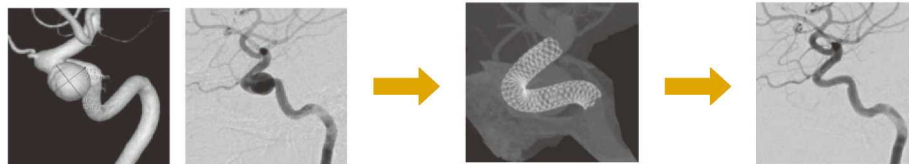
超急性期にある患者さんが安全に治療を受けられるように、また、安心して入院生活を過ごしていただき、笑顔で退院の日を迎えられるよう、多職種で連携し、チーム一丸となって取り組んでまいりますので、よろしくお願い致します。

大型未破裂動脈瘤に対するフローダイバータースtent治療

当院では、脳卒中の予防治療にも注力しており、未破裂脳動脈瘤に対する新規治療法であるフローダイバータースtent留置術を実施しています。

脳動脈瘤の大きさが10mmを超える大型動脈瘤は、従来のコイル塞栓術では根治性が低く、開頭術では非常に侵襲性が高いことが問題でした。

この大型脳動脈瘤の最新治療法としてフローダイバータースtent留置が注目されています。網目の細かい特殊なstentを留置することで、数か月の時間をかけて動脈瘤の血栓化と動脈壁の修復を期待する画期的な治療方法です。



治療前 (12mm 内頸動脈瘤)

フローダイバータースtent留置

治療6か月後

病理部が「ISO15189」を取得

病理部

病理検査とは

病理部は、診療科の一つとして「病理診断科」を標榜し、患者さんの病変部から採取した検体（細胞と組織）を顕微鏡で観察し、疾病の種類を主に形態的に評価する検査で、特にがんの診断では確定的な情報を提供します。

さらに、内視鏡切除や外科切除で取り出された病変を肉眼的に観察した後、標本化したものを顕微鏡で精査し、疾病の質や病変の広がりを調べ、がんの場合はそのステージ（進行度）を決定します。

最近では病理部で標本化し保管された検体から、多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」も盛んに行われるようになってきました。



国際規格である「ISO15189」を取得

病理検査は臨床検査技師の“ウデ”と病理医の“目”に依存するところが大きいのですが、病理検査をより良いものとするためには、「一連のプロセスが国際的に標準化された手法で安全に行われているかどうか？」ということについて、第三者機関による客観的な評価を得ることが重要であると考え、2021年2月に臨床検査の国際規格である「ISO15189」の認定を取得しました。

すでに検査部・輸血部が2018年3月に認定を取得しており、今回病理部が加わったことで、



当院の検査は検査技術や能力に加えて、その管理方法が適切であると認定され、検査結果は信頼性が高く、国際的にも通用することが証明されたこととなります。

今後も、病理部・病理診断科は、各診療科と密に連携するとともに、検査部・輸血部と協力の上、その品質マネジメントシステムを活かして、診療支援をさらに進めてまいります。

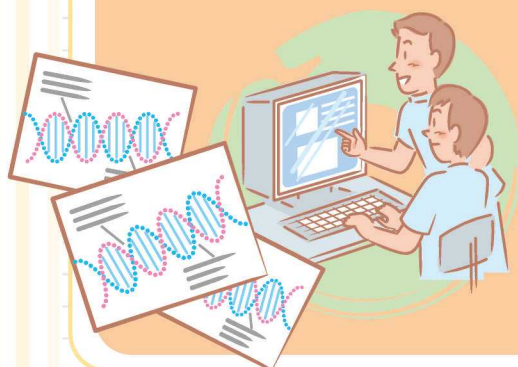
がん遺伝子パネル検査とは？

検査や手術などで保管されているがん組織などをもとにして、がんに関連する100種類以上の遺伝子の変化を解析して、がんの特徴を調べる検査で、その結果に応じて、効果が期待できそうな治療薬や臨床試験の情報を見つけるものです。

ただし、本検査の結果に基づいて、新たな治療薬の提案を受けた患者さんは10%~20%程度と言われていて、遺伝子の変化が見つかったとしても、それに合う治療薬がない場合もあります。

がん遺伝子パネル検査には、いくつかの種類が登場していますが、本検査の対象となる患者さんは、標準治療の効果がなくなった段階のがん、原発不明がん、希少がん、小児がんの患者さんです。

当院では、がん治療や遺伝医療に関わる専門診療科や多職種チームが連携して、切れ目のない総合的ながん医療の提供を行っています。がん遺伝子パネル検査については、まずは担当医に、もしくは、腫瘍内科、がん相談支援センターでご相談ください。



耳鼻咽喉科は「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」へ名称を変更しました

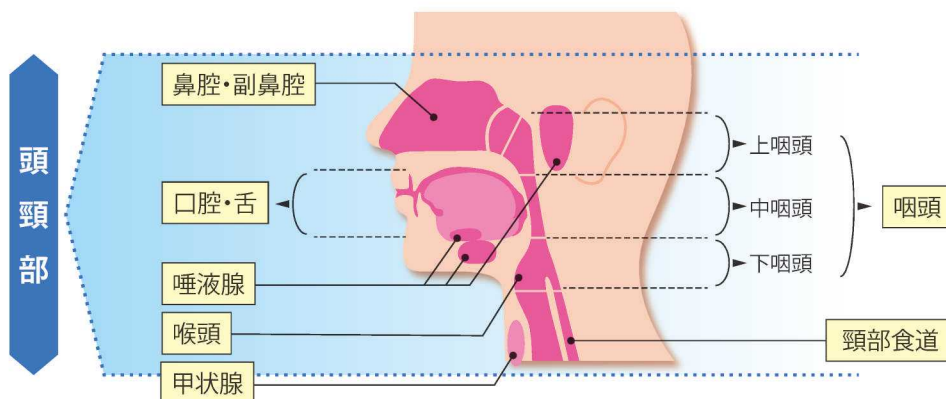
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉科は2021年5月から耳鼻咽喉科・頭頸部外科へ名称を変更しました。
耳鼻咽喉科というと、耳、鼻、のどの病気を扱うと思っている人も多いですが、口腔や舌の病気、睡眠時無呼吸、嚥下障害なども担当し、診療範囲が広いのです。

—頭頸部とは?—

「頭頸部」とは、脳と目を除く首から上のすべての領域で、耳、鼻、口（舌も含む）、のど（咽頭、喉頭）、気管、食道上部、唾液腺、甲状腺などを含んだ領域を指します。

この領域の病気は、「食べる」「飲み込む」「呼吸をする」「話す」「聞く」「味わう」「におう」「体のバランスをとる」など、人が生きていくための大切な機能を意識した治療が必要で、専門性の高い技術が求められます。この分野を担当するのが「耳鼻咽喉科・頭頸部外科医」です。



—頭頸部がんを知っていますか?—

頭頸部外科領域で最も重要なのが、頭頸部がんの診療です。頭頸部にできるがんには、舌がんを含む口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、鼻腔・副鼻腔がん、唾液腺がん、甲状腺がんなどがあります。「のどが痛くて、食べ物が飲み込みにくい。あごの下に違和感がある。」など頭頸部に症状があるときは耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診してください。

乳腺・一般外科は「乳腺・小児・一般外科」へ名称を変更しました

乳腺・小児・一般外科

乳腺・小児・一般外科では、乳腺外科、小児外科、一般外科の診療を行っています。
当院は小児外科手術件数の多い施設であり、年間約150件、新生児手術も年間約10件行っています。

当院は高度急性期機能を提供する教育機関かつ総合周産期母子医療センターです。当科は、先天性疾患や小児悪性腫瘍手術だけでなく、超・極低出生体重児、早産児の外科的治療などの新生児手術も行っており、県内の地域の病院から緊急手術対応となる新生児も受け入れています。

このたび、科名が乳腺・一般外科から乳腺・小児・一般外科に変わりました。あらためて滋賀県の小児外科医療に貢献していきたいと思っております。

スマートフォンによる患者案内サービスを開始しました

医療サービス課

当院では、新たに患者案内システムを導入し、診察呼出しや予約事前確認のできるサービスを開始しました。

患者さんに快適に診察の待ち時間をお過ごしいただけるように、スマートフォンにインストールした患者案内アプリ「コンシェルジュ」を利用し、診察の呼出しをさせていただきます。院内の食堂や駐車場などの別の場所におられても、診察順番が近づきましたらスマートフォンに通知され、スムーズに診察に繋げることができます。

また、患者さんの自宅で診察予約などの日時を確認することも可能で、前日に検査や診察の注意事項などの通知が受けられ、「ついうっかり忘れ」を防止できます。

スマートフォンへの登録は、病院玄関フロアの専用カウンターにて受け付けております。

利用されている患者さんからは「とても便利ですね」とのお声もいただいております。是非ともアプリを登録していただき、この新しいサービスをご利用ください。



第15回「まごころ職員大賞」が決定

患者サービス向上委員会

患者サービス向上委員会において、投票数241票の中から23名の職員に決定しました。令和3年3月17日（水）に授賞式が行われ、田中病院長から表彰状と記念品の贈呈があり、ねぎらいの言葉がかけられました。

これからも、心あたたまる医療の提供を目指し、接遇向上に向けた取り組みを実施してまいります。



「まごころ職員大賞」とは...

職員の患者サービス・接遇意識の向上を啓発することを目的に、患者さんやご家族の方々から「対応が良かった」等とご推薦をいただいた職員を表彰する制度です。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する『全人的医療』」

滋賀医大病院ニュース第61号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL：077(548)2012(総務企画課)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。



●理念を実現するための 基本方針

- 患者さんと共に歩む医療を実践します
- 信頼・安心・満足を提供する病院を目指します
- あたたかい心で質の高い医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 先進的で高度な医療を推進します
- グローバルな視点を持ち、人間性豊かで優れた医療人を育成します
- 将来にわたって質の高い医療を提供するため、健全な病院経営を目指します